第４回稲沢市観光基本計画策定委員会　会議録

【日　時】平成 29 年８月 22 日（火）午後２時～午後４時
【場　所】稲沢市役所本庁舎１階　大会議室
【出席者】稲沢市観光基本計画策定委員会委員（敬称略）

大澤　健	和歌山大学経済学部教授
栗林芳彦	名古屋文理大学情報メディア学部情報メディア学科教授 ・地域連携センター長
古川正美	稲沢市観光協会事務局長
服部正見	稲沢商工会議所理事兼事務局長
山田　洋	祖父江町商工会事務局長
野村　修	平和町商工会事務局長
安藤之一	名古屋鉄道株式会社国府宮駅長
松田雅之	尾張大國霊神社権禰宜
林　和伸	善光寺東海別院副住職
塩冶康人	国土交通省中部地方整備局木曽川上流河川事務所河川公園課長
伊藤哲浩	愛知県振興部観光局観光振興課長
遠藤秀樹	稲沢市教育委員会教育部長
岩間福幸	稲沢市経済環境部長
大野邦子	稲沢市観光協会ボランティア会・稲沢市ふるさとガイドの会
橋本昌博	株式会社国分農園代表取締役
髙村宗克	特定非営利活動法人ネイヴル 理事長
水谷光宏	株式会社水谷建設代表取締役（平和町商工会副会長）

【事務局】

渡會竜二	経済環境部調整監
澤田雄一	商工観光課長
久留宮庸和	商工観光課主幹
大屋　将	商工観光課主任

【議事次第】

1　委員長あいさつ
2　協議事項
（１）各種調査の結果について
（２）計画の骨子案について
（３）その他
3　その他

【会議の概要】

［事務局］

定刻となりましたので、ただ今から稲沢市観光基本計画策定委員会を始めさせていただきます。本日はお忙しい中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

私はこの会議の進行を務めます、商工観光課長の澤田雄一です。よろしくお願いいたします。はじめに、会議の開催にあたり大澤委員長からご挨拶をいただきます。

１　委員長あいさつ

［委員長］

こんにちは。暑い日が続いておりまして、特に愛知県方面では天候不順が続いているということですが、皆さん変わりなくお元気そうで何よりです。いよいよこれから具体的な基本計画の中身に入る段階に差し掛かります。本日の会議は調査結果を踏まえて「今後どういう基本的な方針で行くのか」ということを皆さんに議論いただく場になりますので、活発なご意見をよろしくお願いします。

［事務局］

ありがとうございました。次に３点、ご報告とお願いをさせていただきます。初めに本日の会議ですが、鈴木 隆委員から欠席のご連絡をいただいておりますことをご報告いたします。

２点目に、本日の会議には、観光基本計画の策定に当たり業務支援をいただいております株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所様に引き続き事務局の補助として同席いただいておりますので、よろしくお願いします。

３点目に、本日は会場が広いため、ご発言いただく際はマイクをお使いいただきますようご協力をお願いいたします。

それでは、これより議事に移らせていただきます。本日の協議事項は、お手元のレジメに記載のとおり、「各種調査の結果について」、「計画の骨子案について」、「その他」の３点です。

会議の議事進行につきましては、本委員会の設置要綱の規定により委員長が務めることになっておりますので、以後の会議の取り回しにつきましては、大澤委員長にお願いいたします。

２　協議事項

（１）各種調査の結果について

（２）計画の骨子案について

［委員長］

これより議事に入りたいと思います。

最初に、協議事項（１）各種調査の結果について 及び 協議事項（２）計画の骨子案について、事務局から一括して説明をお願いします。

＝［事務局］＝

【資料１「稲沢市観光まちづくりビジョン（第２次稲沢市観光基本計画）骨子案」及び資料２「第

２次稲沢市観光基本計画策定組織について」に基づき説明】

［委員長］
事務局からの説明が終わりました。ご意見、ご質問等がある委員は挙手をし、指名されましたらご発言いただくようお願いします。

［委員］
資料１「計画骨子案」の６ページ「各観光地・イベントの来訪者の推移」の表で、平成 28 年の来訪者数の合計が 2,116,468 人となっています。18 ページに記載されている成果指標の数値は、この数字に基づいて作られているという理解で良いのでしょうか。

［事務局］
成果指標の考え方に関するご質問だと思いますが、お見込みのとおり、18 ページに掲載されている成果指標の基準値「211 万 6 千人」は、６ページに掲載されている平成 28 年の来訪者数合計を基準にしています。また、同じく 18 ページで「目標値の考え方」として２つの例を挙げていますが、いずれの目標値も「あいち観光戦略」の数値目標の伸び率である「1.31」を根拠としたもので、「県の基準による」という考え方で示しています。

［委員］
６ページの来訪者数の内訳を見ると、年間を通じた数値となっている場合もあれば、単発的に行われるイベントの数値になっている場合もあり、その合計として「211 万 6 千人」という形になっていると思います。各イベントの詳細までは分かりませんが、サリオパーク祖父江では「稲沢夏まつり」と「稲沢サンドフェスタ」が開催されています。両イベントともに既に集客のキャパシティを越えており、この数字を上げて行くことは非常に困難なため、公園を管理する我々としては「年間を通じた来訪者数をどう増やしていくのか」という議論にシフトしていくべきだという考え方になっています。そのため、「211 万 6 千人」という基準値に対して「1.31 倍の伸びを見込む」という目標値の考え方だとすると、私どもの方向性と少し異なっている気がします。
「年間を通じた来訪者数と単発的なイベントへの来訪者数を合わせた 211 万 6 千人」という数字を基準として「1.31 倍の伸びを見込んで目標値を設定する」という考え方に違和感があったので、何故そのような考え方にしたのかを教えてください。

［事務局］
貴重なご意見ありがとうございました。先ほども申し上げたとおり、計画骨子案では一定の基準を持った数字で積算する必要があると考え、愛知県の「観光レクリエーション利用者統計」の統計データを使うことにしました。また、「1.31」の伸び率についても県で示されている数値を根拠としています。ご指摘の点ですが、サリオパーク祖父江で今後の伸びを見込めるということでしたら、それらを含めた目標値を設定することも可能であると考えています。

［委員］

市が管理している運動場、県が管理する河川の堤内地、国が管理する堤外地の３つから形成されているサリオパーク祖父江では、年間を通じた来訪者数を把握していますので、その数字を使って積算したほうが現実的な気がします。

私たちは、ウィンドサーフィンや水上バイク、サップヨガなどで、日常的にイベントが無くても来ていただける場所を目指しています。また、サリオパーク祖父江は野鳥が愛知県で一番多いということが調査でも明らかになっており、ホームページでも紹介されているような場所なので、野鳥観察や環境保護のために訪れる方々も年々増えています。そうした方々を含めた形での成果指標を目指して私どもも取り組んでいきたいと思っています。これまでは「稲沢夏祭りや稲沢サンドフェスタにより多くの人を呼ぶ」という方針でやってきましたが、もっと分散して、サンドフェスタの入場数が減ったとしても、祭りの開催月である 10 月を見ると、全体として人数が増えているということを目指したいと思っています。

「1.31 倍」の伸びを見込むことに異論はありませんが、「221 万 6 千人」を基準とすることについてはもう少し議論をしていただければと思います。そうしたほうがより現実的になりますし、今後のアクションプランも作りやすいのではないかと思います。

［委員長］

もっともなご意見だと思います。本来は目的があっての成果指標であって、「来訪者の通年化を図る」という方針を示したのであれば、それに合致した目標数値が示されることが一番良いと思います。ただし統計上難しい点があり、「イベント時に来ているのか」、「通年で来ているのか」の把握が難しいのが一つと、もう一つは「観光入込客数が一番分かりやすく大事な指標である」ということです。ただし、もう少し成果目標に合った数値にしたほうが良い気がします。観光入込客数で言えば、イベントをあと５つ増やせば目標は達成できます。しかし、イベントを５つ増やして目標を達成した結果、それで稲沢市の観光が盛り上がったかと言えば、そこは目指すところではないと思いますので、観光入込客数以外の数値も検討していく必要があると考えます。この点について、皆さんの考えはいかがでしょうか。

可能であるならば、「観光に参加している人の数」や「観光まちづくりに関する市民の意識向上」といった項目を目標数値に入れて欲しいと思いますが、継続的に進捗管理していくことが困難です。仮に継続的に調査し続けなければならないとなると、コストの問題があります。そうしたこともあって、実際は観光入込客数に頼ってしまうのですが、それだけを成果指標にすることはかなり危ないし、時代遅れな感じがします。

それから、ちゃぶ台をひっくり返すような話で申し訳ないのですが、この計画書は誰に向けて書いているのでしょうか。間違いなく市民に向けて書かないといけませんし、観光を行っていく上で「市民の主体性を引き出す」という目的もありますので、計画自体も市民に読んでいただけるような内容で書かないといけないと思います。しかし、本日示された計画書の書き方で市民に読んでもらえるのかは甚だ疑問です。オーソドックスな観光基本計画や行政計画の書き方に則っているとは思いますが、読み始めてから第２章辺りで皆挫折すると思います。本来伝えたい箇所にたどり着く前に挫折してしまいそうな気がしますので、可能であれば、計画書の一番のポイン

トとなる第３章から書くことが一番良い気がします。市民が率直に思うのは、「稲沢でなぜ観光なのか」という部分だと思います。その中で「稲沢市がどういう観光をやろうとしているのか」又は「何のためにやろうとしているのか」ということを市民の皆さんにストレートに伝わる書き方をして、「なぜこういう方針が出たのか」ということは後ろに書いておけば良いと思います。章立てを少し変更し、大事なメッセージから先に伝えたほうが良いと思うのですが、いかがでしょうか。「稲沢市がこれからやろうとしていることが伝わるのか」又は「伝わっているだけでなく、自分がやりたいと思ってもらえるのか」、その点では少し書き方に工夫が必要ではないかと感じます。事務局として計画書の書き方に何かこだわりや順番のルールはあるのでしょうか。

［事務局］

貴重なご意見ありがとうございます。我々としても、市民にストレートに伝わる分かりやすい計画書を作ることが目指すところです。現在、策定委員会を開催している段階ですので、委員の皆様から様々な意見をいただきながら計画全体の流れや章立てを検討し、修正していきたいと思います。

［委員長］

そうした視点から言えば、一番重要だと思う第３章のタイトルが「観光まちづくりビジョンの基本的な考え方」となっています。「基本的な考え方 ＝ ビジョン」だと思うので、「ビジョンの基本的な考え方」と言われると何だかピンと来ません。そして、ビジョンとアクションプランの関係を示す上で、「何のために、誰が、どうやってやるか」を表すのが基本計画だと考えます。そのため、「何のために」という部分からまず書き始めることが良いと思います。そして「誰が、どうやって」を書いた上で、具体的に「何をやるのか」を表すのがアクションプランであると私は理解しています。「基本方針」、「基本戦略」、「基本的な考え方」と、同じような内容が言葉を変えて出てきていますので、もう少し整理できたら良いと思います。「何のために」を表すのが「基本理念」になりますので、「基本的な方向性」が先に記載されているのは逆のような気がします。基本理念が「観光まちづくり」であり、その中で基本的な方向性として「人と魅力をつないでいく」という趣旨が来て、それを具体的な戦略に落とし込む段階で「観光まちづくりを主体的に取り組む人たちを発掘します」、「着地型観光メニューの造成をします」、「地域経済が潤う仕組みを作ります」といった「アクションプラン基本方針」が出てくると良いと思います。その上で「継続的に取り組む」、「ターゲットを明確にする」、「事業の成果検証を行う」、「地域交流を生み出す事業とする」、「各主体の連携を促していく」といった基本戦略が来るのではないかと思います。

市民に読んでもらうためには、「何が書いてあるか」が分かりにくいといけませんので、「何のために、誰が、どうやってやるのか」、「その中で何をやるのか」というまとめ方にしていくべきと考えます。成果指標やターゲットの設定の記載は、基本戦略の次ぐらいで良いと思います。「ターゲットを明確にして成果検証を行う」という方針があった上で、始めて具体的な記載が可能になりますので、内容の軽重を見ながら整理していく必要があると思います。

［委員］

私も説明を聞いた結果、「市が一体何をやりたいのかが判然としない」というのが正直な感想です。今回、大澤先生に会長を務めていただいていることもあって、「そもそも観光とは何か」とか、少なくても「稲沢市が目指している観光とは何か」といった具合に、観光の再定義みたいなものがこの計画書の中で示されても良いのではないかと思います。市民からすると、観光と言えば「物見遊山のように何かを見て遊び歩く」という印象を受けるので、ここでは「稲沢市は観光に対してこういう捉え方をしている」ということをもっとストレートに伝わるような形で書いたほうが良いと思います。

そして、具体的なアクションプランはこれからという段階になりますが、アクションプランを企画立案する別の組織があるにせよ、大きな方向性というのはこの策定委員会で示しておくべきだと思います。基本的な方針がはっきりしないと、アクションプランを作る人たちはどうやって作っていいのかが分からないと思います。「イベントに頼るのではなくて、恒常的、日常的な来訪者を増やす」ということが稲沢市にとって非常に大きなポイントだと思います。全てのポイントがそれである必要はないのかも知れませんが、そうしたことを強化していくことも大きな方向性だと思います。それに従ってアクションプランを考えていただくという流れがあっても良いと思います。また、成果目標に関しても、全体的な数値だけを示し、具体的な中身はアクションプランで記載することになっていますが、本来は各アクションプランで目標数値を出した上で、それを積み上げた合計数を成果目標にしていくべきだと思います。

私事で恐縮ですが、この土日にしまなみ海道でサイクリングをしてきました。尾道から今治まで 70 数キロあって自転車で渡ってきたのですが、新しい観光の素晴らしいケースだと思いました。これからの観光は何か物を見るだけではなくて、参加者が主体的になって活動する等の方向性があり、それを「自治体等がどういった形でサポートするか」が一つのポイントになると思います。調べたところ、しまなみ海道が開通してからレンタサイクルの利用者が増えてきており、現在は 11 万 6 千人になっているそうです。大きな数ではありませんが、日本全国から人が集まる仕組みができていることはすごいことだと感じました。ですから、「稲沢市に行ったら何ができるのか」を市外や全国、海外の人たちに伝える仕組みも必要だと思います。いずれにせよ、「従来の観光とここが違う」という部分が強調されていると良いと思いました。

［委員長］

単にイベントで人を集めるのではなく、今委員が言われたように「稲沢市に来て、何を感じて、何が出来るのか」という深い部分で共有できる観光に取り組もうとしていることが、市民や市外の方にしっかりと伝わらないといけません。私は毎回会議に参加しているので分かりますが、初めてこの計画書を読んだ市民に「稲沢市がこれからやろうとしている観光」がきちんと伝わるのか、または「何を目指して」、「何をやろうとしているのか」が伝わるのかは疑問が残るところです。計画書内には様々な箇所に良いことが書いてありますので、もう少し整理して書いていただくと良いのではないかと思います。

［委員］

国府宮神社としては、観光地としての関心度が高いだけでなく、国府宮はだか祭も関心度が高いという調査結果が出ており、非常にありがたい思いです。ただ、我々としては、観光をメインとする神社ではないというのが正直なところです。お越しいただいた方もお参りをすればそれで終了というところがありますし、お土産がたくさん並んでいる神社でもありませんので、若干違和感があります。

イベントとして、国府宮はだか祭は参拝客も参加者も非常に多く、年末になりますと「来年のはだか祭はいつですか」、「はだか祭にはどうすれば参加できますか」という問合せが多く寄せられます。ホームページに情報を出してからは割と少なくなりましたが、それでも電話は多くかかってきます。そうした際のこちらの回答としては、「稲沢市の近隣で誰かお知り合いの方はいらっしゃいませんか。その方を頼って参加していただくのが一番安全です」もしくは「神社の東に和陽館というビジネスホテルがありますので、そこでしたら有料で食事とお風呂、足袋晒しも付いて参加できます」となります。しかし、和陽館のキャパシティを越えますと、はだか祭に参加しようと思っても、参加できない状況に陥ってしまいます。

神社だけで考えても限界がありますので、はだか祭に体験参加する手法など、そういったアイデアがアクションプランにあっても良いのではないかと思います。また、国府宮神社の参道でマルシェを開催してもらう話も出ています。毎月何日だったり、曜日等を決めて開催していただいても良いと思います。この２つをアクションプランのアイデアとして提案したいと思います。

［委員］

資料１の９ページに「稲沢市の魅力について」とありますが、旧稲沢市、旧祖父江町、旧平和町が合併して新稲沢市になったことによって、各地域の魅力が凝縮された結果、このような評価になったのではないかと私は感じています。旧稲沢市は「祭りやイベント」が中心でしたが、祖父江町や平和町と合併したことによって「自然」というものが取り込めるようになったと思いますし、その歴史を考えた時に、木曽川上流から来る砂、土、川の流れ、それらがなければ歴史的な遺産というものはできなかったと思います。また、木曽川から流れてくる土がなければ、植木や苗木の生産が盛んな土地にはならなかったと思います。そのように考えていくと、「合併したことによって、素晴らしい財産を得た」というのが稲沢市ではないかと私は思っています。

今、稲沢市役所から前の道路をまっすぐ東西に通し、祖父江町、平和町方面へ向かう道路を作り、サリオパーク祖父江の所に交差点ではないラウンドアバウトを作って、旧１市２町を一つの稲沢市にまとめるようなイメージで土木関係が動いていると思います。これによってサリオパーク祖父江への距離も近くなりますし、物流や人の交流も新たに生まれると思います。それを受けて、私たちは植木や苗木、イチョウ・ぎんなん等といった地域資源を活用し、「河畔砂丘で何か出来ないか」、「稲沢市にあるいろいろな祭りを紹介するようなことが出来ないか」と考えているところです。「合併したことによって財産を得た」という観点が大事だと感じています。

［委員長］

「具体的な仕掛けを作ってつないでいくこと」、「皆さんつながりたかったら、つながってくだ

さいという仕掛け」が必要かもしれません。

［委員］
　善光寺の副住職をしています。今、委員長から「つなぐ」ことについてお話をいただいたのですが、私どものお寺では、お参りをしていただくほか、観光としての寺という側面も持っています。ただ、今までの「見る」、「拝む」だけでは足りないと感じています。そうした中、何年もかけて手掛けているのが、そぶえイチョウ黄葉まつり実行委員会と連携して、祭りに来ていただく方に何とか宿泊もしてもらえないかということです。そうすることによって、見るものが増え、食べるものが増え、滞在時間が増え、そして地域の人々に潤いを与える、そういったサイクルが出来ないかと考えています。祭りの事務局である祖父江町商工会と話を進めている段階ですので決定してはいませんが、お寺の力だけでなく、地域の方々、またご商売をされている方々が手をつなぐことによって共存していくことが最も観光誘致につながるのではないかと考えています。善光寺では、観光的な側面で旅行会社などに寺のパンフレットを持参して営業活動をしていますが、中々お寺だけでは観光客に来ていただけないのが正直なところです。そのため、稲沢市に来ていただくためには、お寺に加えて、食べるもの、学ぶもの、見るもの、そういった様々な要素が混ざり合って、初めて観光客を誘致できるのではないかと思います。「つながる」ということは私も非常に良いことだと思っています。

［委員長］
　先ほど委員からも話があったとおり、「アクションプランを作る人たちがこれでアクションプランを作れるのか」という視点がすごく大事です。あまり絞り込むと誘導になり、良くありませんが、「稲沢市の様々な魅力を組み合わせてもっと輝くようにしていく」、「単発的なイベントではなく、日常的に稲沢市に来てもらえる方法を考える」、「一緒に出来ることを考える」といった基本方針をこの策定委員会で明確にしておき、アクションプラン検討会議で「具体的に何をやるか」を考えていく流れが良いと思います。そうした点を含めて皆さんからのご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

［委員］
　今回会議に出席させていただき、「ぼんやりと明かりが見えてきたな」という感じがしています。実際にアクションプランを作る立場として、「今後どういったことをやっていけばいいのか」という不安がありました。第１回目のアクションプラン検討会議の参加メンバーを見てみると、現在自ら何らかの事業や取組をされており、悪い言い方をすると、この会議を使って「自分たちの事業のＰＲをしよう」というような感じの方々が多かったように思いました。そのような状況の中で「どうやってアクションプランを作っていけば良いか」という不安がありました。ですから、先ほどから議題に上がっているように、「稲沢市の観光としてどういうことをやりたいか」というきちんとした目標があって、「それに対するアクションプランを作ってほしい」いということであれば、それに則って進められると思います。「何でもいいからアクションプランを挙げてください」というやり方だと、先ほど言ったように、今活動している方々がこの場を活用して自分たちの

ＰＲに努めてしまうことが多くなるのではないかと思いました。

先ほど、旧稲沢市、旧祖父江町との繋がりの話が出ましたが、私は旧平和町の人間です。平和町はどちらかと言えば、イベント事業で人を集めるということしかやってきませんでした。平和町は観光のメインが「桜」になります。合併する前には、水路で蛍を育成して鑑賞しようという計画もありました。役場内で蛍の幼虫等も飼育していた時期がありましたが、これも合併とともに中止になり、今は少し寂しい気持ちでいます。

［委員長］

「具体的な方針や戦略があり、それに則ってアクションプランを作るほうがイメージしやすい」ということですね。

「観光入込客数を増やすために蛍を増やしてください」というのは中々言いづらいので、「ここに来れば水の恵みが感じられる」といった取組としてやっていただくほうが良いと思います。

［委員］

今は総論部分の議論が中心で、詳細部分についてはこれからアクションプラン検討会議等で具現化していくことになると理解しています。皆さんもおっしゃっているように、資料１の９ページには「稲沢市の自慢したい、誇りにしたい魅力」が凝縮されています。そのため、アクションプランでは、これらの魅力を上手く活用しながら具体的に展開していくことになるのではないかと思います。この基本計画を具体的に展開していくアクションプラン検討会議には是非立ち合いたいと思いますが、具体的に進展があるのはいつになりますか。次回の策定委員会は 10 月又は 11 月に開催予定となっていますが、アクションプランについて具体的に議論される場面はいつになるのでしょうか。中々各論に入っていかないので、時間が経つのを感じています。

［委員長］

アクションプランは勝手に決めるわけにはいけませんので、急いで作ることは難しいです。一方で、「やりたい人にやりたいことをやってもらうこと」も重要ですが、計画書として形にすることも当然必要です。そのため、「どこまでフレームをはめるか」が非常に難しいのですが、絶対に誘導はしてはいけません。行政がやりたい方向に引っ張って行くと、今の市民は必ず見透かします。行政の目指すところと市民が目指すところが合致して、「同じところに皆で歩いて行きましょう」と言えるようなものにしていかなければいけません。また、綺麗事は大事で、「どこを目指して進もうとしているのか」、お互いに納得できる基本理念が無いと、方向性がブレたり、何かに一緒に取り組むことが難しくなってしまいます。そうした中で、例えば「成果検証をやりましょう」、「ターゲットを明確にしましょう」という、行政の基本的な枠にはめていくことが大事だと思います。緩くし過ぎると考えにくくなりますし、様々な事を決め過ぎると窮屈になってしまうので、その辺りのバランスを取りながら、「市民の皆さんが自分の事としてやれるようなプラン」を最終的には目指していく必要があると思います。

［委員］
　アクションプランを実行する立場にある点を踏まえて申し上げると、「成果指標」とか「ターゲットの考え方」という部分がすごく難しいと感じています。アクションプランによってターゲットが変わる中で、「どうすれば成果が出るのか」を考える作業が難しいと感じています。「あまり枠に当てはめてはいけない」という話でしたので、ある程度自由に考える形になると思いますし、９月以降に行われるアクションプラン検討会議の中でメンバーから様々な意見やアイデアが出て、そのアイデアをやりたいと手を挙げる人が多くいれば問題無いと思いますが、何も出て来なかった場合に私たちはどうしたら良いのかが不安です。

［事務局］
　タイムスケジュールとしてはタイトになっており、この８月から 11 月までの期間で、アクションプランをはじめ計画の具体的な中身をまとまる作業を実施していきます。なお、９月開催のアクションプラン検討会議は２回目ということもありますので、まずは皆さんの思っているゴールや方向性、魅力等を共有し、整理していくところから始めなければいけないと思っています。その中で、参集したメンバーからどういった発言が出るのかは、会議を開いてみないと分からない部分がありますので、その内容を含め、策定委員会で逐次ご報告させていただきます。10 月と 11 月の策定委員会でアクションプランのすり合わせを行った上で、11 月末には計画書案として整えたいというのが事務局のスケジュールです。

［委員長］
　行政的なスケジュールもあると思います。私が書いたら綺麗な計画書が書けますが、市役所の本棚の飾りを一つ増やすだけになります。そうならないようにするためには、計画書には「実際にやる人たちが納得できること」、「やると言ったこと」を書かないと実効性が担保できません。その中で行政的なスケジュールとのすり合わせになりますが、私の感覚から言うと、不十分でも「皆がやりたいと言ったこと」を書いたほうがいいと思います。綺麗にまとまっていても、「誰が実施するのか」について皆が納得できていない計画は良くありません。市民から「私はもっとこういうことがやりたい」、「ああいうこともやりたい」という声が出てくることが重要です。委員から意見もあったとおり、言葉の言い回しも少し変えていく必要があると思います。「成果指標」ではなく「何を目指しますか」とか、「ターゲット」ではなく「誰に喜んで欲しいか」、「どんな人たちに楽しんでほしいですか」といった具合に、市民と共有できるような言葉の使い方をしていくことも必要だと考えます。
　アクションプランは「市民から行政に対する言質」だと思っています。市民のやりたいことを行政が計画にすることで、「市民のやりたいことを認めたのだからしっかり支援してください」、「市として認めてください」という、市民側から行政側に約束を取るようなものだと思っています。逆に言えば、行政も市民との約束としてアクションプランを作らなければいけません。

［委員］
　アクションプランの検討作業の参考にしていただければと思いますが、今日いただいた参考資

料１「稲沢市の観光に関する市民意識調査及び稲沢市の観光に関するインターネット調査【調査結果報告書】」の 72 ページに「あなたが魅力的に感じる観光地を、下記から３つまでお答えください」という設問の回答結果が掲載されています。この結果は要するに「観光する人が一体何をしたがっているか」ということであり、「美しい自然環境が楽しめる」とか、「食事や買い物が楽しい」といった要素を一般的に観光客は求めているということです。今、議論として「稲沢市には何があるのか」というところからしか話していませんが、はっきり言ってキラーコンテンツは「国府宮はだか祭」しかありません。国府宮はだか祭を年に５回も開催出来るなら話は別ですが、１回しか開催出来ないのですから、それにこだわっていてもしょうがありません。キラーコンテンツが無いという前提で物を考えなくてはいけません。観光客のニーズを考えた時に、73 ページの年齢別クロス集計が大変参考になると思います。「どんな人たちに来て欲しいか」という観点からすると、たくさん来てくれるに越したことはないので、皆に喜んでもらうことも良いかもしれませんが、例えば年代別に見ますと、20 代では「スポーツが楽しめる場や子どもの遊び場が充実した観光地」は 23.1％あります。これは悪くない数字です。全ての人を満足させることは出来ませんが、ニーズを踏まえて熱狂的に来てくれるコンテンツを探すことが必要です。せっかくこういう調査を実施したのであれば、この結果を活用して「ここにチャンスがあるのではないか」、「こういうことをやったら稲沢市に来てもらえるのではないか」という発想を持っていただけると良いと思います。あとは、他の自治体との競争です。「近隣の市町に無いモノ、出来ないコトを作っていくこと」も一つの方向性だと思います。あとは、キラーコンテンツが無いのであれば、先ほどから話が出ている「つなぐ」ことも一つだと思います。例えばＡＫＢ48 ですが、メンバーが多くいることでより魅力的に見えます。「１＋１＝３」に見えるような事を考えていくと良いと思います。また、稲沢市内には素敵な神社仏閣が多くありますが、例えば善光寺だけに行くのであれば「行く」ですが、それが複数になれば「巡る」という動詞に変わります。「行く」と「巡る」は随分違って、滞在時間が長くなり、お金が落ちる可能性も高まっていきます。そして「巡る」ためには、マイクロバスや自転車等の仕組みが必要になります。自転車に関して言いますと、ＮＴＴドコモが「ＧＰＳの搭載された自転車を走らせたい」という企画を市企画政策課に提案されていますので、連携して実施していければ面白いと思います。稲沢市はキラーコンテンツが無いので、多様な捉え方をしていかないと、継続的な集客は難しいという印象があります。

［委員長］

本日示された計画骨子案に大切なことが書かれていない訳では無くて、実は全て書かれています。後は軽重のメリハリをもう少し付けて分りやすくすれば良いと思います。

キラーコンテンツが無いのであれば、稲沢市ならではの魅力をつなぐことによって、特性が出せて、地域としての魅力が高まっていくようなものを作り出していくということです。ただし、実際に取り組んでいくためには、皆さんが主体的に「やりたい」、「つながりたい」と思わないといけません。無理矢理つなげても上手くいきませんので、「お互いに手を取り合ったほうが良いことが出来る」、「もっと魅力的になれる」と考えていくことがアクションプランのテーマになると思います。

もう一つ、自分たちだけの満足ではなく、来訪されるお客さんをイメージして考えていただく

と、アクションプランを作る側もイメージがしやすいと思います。先ほどの繰り返しになりますが、アクションプランを作る人たちがイメージしやすいように整理するものが「基本戦略」になると考えます。その中で成果指標が出てきますが、最初から大きく出さなくて良いのかもしれません。本日示された目標値案は県の指標が基準になっていますので、皆さんのやる気が出る指標では無い気がします。ただ、県の目標値を決める時にも話が出ましたが、「インバウンド 1,000 万人」という目標を小泉元総理が掲げた際に、「そんなことが実現できるのか」、「絶対に無理だ」という声があったものの、実際は目標年の前年に達成できています。あの時は「日本の観光もやればできる」という高揚感があり、やはり目標数値はすごく大事だと思いました。そういう意味で「観光入込客数」が悪いという訳ではありませんし、大事だと思いますが、「皆でこれを目指して頑張ろう」と言える目標値であることが何より必要だと考えます。そういう意味からすると、「296 万 3 千人」という数字では「これを目指して頑張ろう」という気が余りしません。「300 万人とか 400 万人を目指すために稲沢市の魅力をつないでいきましょう」と言った方が皆に伝わると思います。

［副委員長］

「稲沢の魅力をどのようにして作るか」という部分で、これからアクションプラン検討会議の中で具体的に作り上げていく事業が非常に大事になると思います。

稲沢市観光協会では毎年モニターバスツアーを実施しています。今年は国府宮神社や善光寺東海別院にも協力いただき、祖父江地区の尾張七福神を巡るツアーも取り込んで募集をかけたところ、新聞掲載によるＰＲも功を奏して、市外からの問合せが大変多く寄せられました。その結果、定員 40 名でしたが、募集開始１時間で全て埋まってしまって、その後もキャンセル待ちの状況です。こうした状況を見ると、稲沢市にも素材はあって、市内の方はもちろん、市外の方も興味を持たれていると感じます。素材も組み合わせることによって、新たな魅力が感じられます。また、最近はご朱印帳を持って、各地でご朱印を集めて回ることがちょっとしたブームになっており、そうしたことに興味を持たれている方が多いと感じています。市内外の様々な場所をつなぐことによって、新たな観光の視点が出てくると感じています。アクションプラン検討会議でもそうした視点で取り組んでいただくと、非常に良いものが生まれるのではないかと期待しています。

［委員長］

アクションプランでもこうした事例が出てくると良いと思います。

協議事項１、２について、皆様からいろいろな意見をいただきました。特にアクションプランの作成に向けて、非常に深くキャッチボールが出来るような意見が多く出されたことが非常に良かったと思います。本日示された計画骨子案については、皆様からいただいた意見をアクションプランの検討作業にも活かしていくという進め方でよろしいでしょうか。

＜「異議無し」の声＞

［委員長］
　事務局にあっては、本日委員から出された意見を踏まえ、アクションプランの検討作業をはじめ必要な事務を進めていただくようお願いします。

（３）その他
［委員長］
　それでは次の協議事項に移ります。協議事項（３）その他について、事務局から説明をお願いします。

＝［事務局］＝
【資料３「稲沢市観光基本計画アクションプラン検討会議の開催状況について」に基づき説明】

［委員長］
　事務局からの説明が終わりました。ご意見、ご質問等がある方はお願いします。
　アクションプラン検討会議にも出席される４名の方には本日の会議で出た意見を踏まえ、策定委員会とアクションプラン検討会議をつなぐ役割をしていただきたいので、よろしくお願いします。
　意見や質問等も無いようですので、以上をもって本日の協議事項の検討について終了したいと思います。慎重審議、誠にありがとうございました。

３　その他
［事務局］
　ありがとうございました。本日委員の皆様からいただきました貴重なご意見を踏まえ、今後の事務を進めてまいりますので、よろしくお願いします。
　最後に事務局から事務連絡をさせていただきます。次回の会議についてですが、10 月 25 日（水）の午後２時から、会場は市役所本庁舎３階の議員総会室で開催させていただきますので、よろしくお願いします。会議の内容としましては、本日ご承認いただきました計画骨子に具体的な事業内容等を肉付けした「計画素案」をお示し、委員の皆様にご審議賜りたいと考えております。その際には、先ほどもご説明しましたアクションプラン検討会議の進捗状況も併せてご報告したいと考えておりますので、よろしくお願いします。詳細につきましては、文書で改めてご案内させていただきますが、事前にご予定いただけますと幸いです。また、第６回以降の開催日程につきましても、調整ができ次第、速やかにお示ししたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。
　以上をもちまして、会議を閉会させていただきます。本日は長時間にわたり慎重審議を賜り、誠にありがとうございました。

以上